



第1回研修医スキルアップセミナー「実技で学ぶ緊急気道確保」開催報告

初期研修医の医療安全に資する臨床実践力向上を目的として、今年度より卒後教育開発センターと共同で「研修医スキルアップセミナー」を開催することとしました。第1回は7月31日に行い、講師による指導の後に研修医自らがブタの喉頭を用いて輪状甲状間膜穿刺の手技を練習しました。

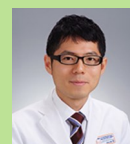
気道緊急症例は頻度は高くないものの誰でも遭遇しうるため、緊急気道確保手技を獲得しておく必要があります。本手技で頻用されているミニトラック®の使用法習得をセミナーの主目的としました。



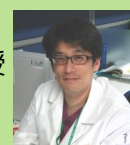
初めて行った先生も見事に成功させていました

●講師

・赤澤仁司
中央クオリティマネジメント部 助教
(専門：耳鼻咽喉科・頭頸部外科)



・中村京太
中央クオリティマネジメント部 特任准教授
(専門：救急医学)
横浜市立大学とのクロスアポイントメント



講師が模範実技を示しながら手法を解説しました



血管留置針を用いた輪状甲状間膜穿刺も練習しました



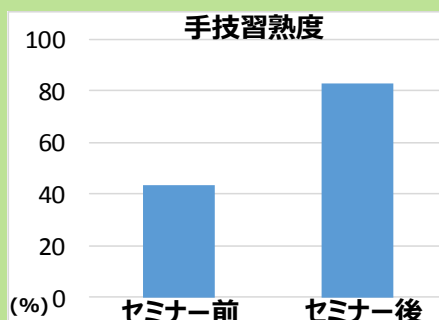
ブタの皮膚はヒトの皮膚と触感が似ており、リアリティがあると好評でした

●アンケート結果

本手技における習熟度の自己評価はセミナー前に比べて上昇していました(右表)。

「緊急時に必要な手技でも実際に練習することはないため、今回の実技は非常に貴重な機会でした。」

「こういったラボや講義はとても役に立つので積極的に参加したい。」
といった感想が参加者から寄せられました。



好評につき、今後も「実技で学ぶ」シリーズを行う予定です。